

オグニマチ

小国町

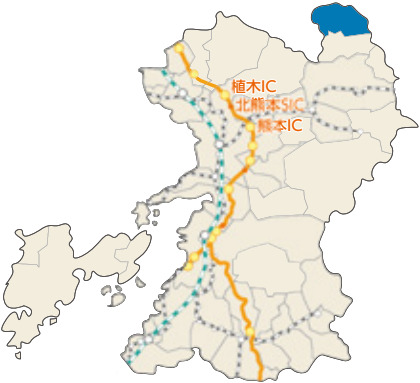
総人口…6,158人 男…2,933人 女…3,225人 世帯数…2,924世帯
(人口構成比) 15歳未満…9.9% 15～64歳…45.4% 65歳以上…44.7%
※データは令和6年7月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。



渡邊 誠次 町長

小国町は2018年に国からSDGs未来都市に選定され、地熱と森林を活かした将来にわたって持続可能なまちづくりを進めており、2024年発行の新千円札肖像画となる「北里柴三郎」博士の出身地です。

「ALL FOR THE NEXT ～すべては次世代のために～」をテーマとし、小国町を未来を担う子どもたちへ繋いでいくための事業を進めています。



寄附御礼

- ・贈呈式開催(首長出席、寄附額100万円以上)
- ・感謝状贈呈(寄附額10万円以上)
- ・地公体広報誌掲載
- ・HP掲載
- ・視察受入
- ・功労者表彰推薦
- ・紺綬褒章推薦
- ・その他(記念品の贈呈(寄付額100万円以上))

新しい民間企業の技術・ノウハウを積極的に活用したい政策課題・取り組み



カテゴリー6 観光客の誘致・地域PR

“鍋ヶ滝公園”～持続可能な観光資源へ～

鍋ヶ滝公園は令和元年度に24万人の来園者にお越しいただきましたが、地域住民や観光者へのオーバーツーリズムが課題となっていました。2022年からはその課題を解消すべく事前予約制のシステムを取り入れ渋滞解消に努めたことで持続可能な観光地100選に選ばれています。その取り組みを継続しながらより一層観光客の満足度を高めるため、周辺整備を行い、持続可能な観光資源として生まれ変わる事業を予定しています。

鍋ヶ滝公園



カテゴリー10 DX

もっと便利で効率的に、小国町のDX推進

小国町ではノーコードのアプリを活用し、出退勤簿や災害時に町内の被災状況が共有できるアプリなどを制作し、庁舎内の業務効率化を進めています。これからはデジタルを取り入れて更に住民が直接便利さを実感できるDX化を目指しています。

スマホで共有する被災状況報告アプリ



小国町まち・ひと・しごと創生推進計画

ALL FOR THE NEXT ～すべては次世代のために～

基本目標

1

地域の資源を活かした、循環型の社会と産業づくり

地熱とバイオマスを活かした農林業タウンをテーマとし、農林業の振興及びSDGs未来都市として脱炭素化に向けた地熱と森林資源の活用を推進する。

基本目標

2

仕事の創生・働く場づくり・働く環境づくり

担い手支援と働き方支援をテーマとし、地域資源の活用による新たな産業の創出による雇用の促進、人材育成、商工業の振興及び農林業の担い手支援を進める。

基本目標

3

観光・交流による地域経済の浮揚

滞在型・体験型の観光地づくり・小国暮らしの支援をテーマとし、新たな観光資源の発掘と内容充実、交流人口・関係人口の増加、移住定住政策などの事業を進める。

基本目標

4

安心して子育て・生活が出来る環境づくり

安心の子育て支援・老後の不安解消・婚活支援をテーマとし、子どもを産み育てやすい環境づくり、質の高い心豊かな人材育成、公共交通の充実などを進める。

重点プロジェクト

あかりを灯し、地域をてらす

総事業費

100,000千円 寄附目標額 —

数値目標

●SDGsに係る町外からの視察等での延べ来訪者数 … 300人／年
●旧西里小学校利活用団体数 …………… 20件

〈SDGs〉関連するゴール



小国町西里明里(あかり)地域にある旧西里小学校を移住定住人口の増加や雇用の創出、魅力ある持続可能なまちづくりのため、建物の良さを残しつつ、サテライトオフィスやコワーキングスペース等として整備しました。新たにニシザトテラスとして生まれ変わり、転職なき移住を推進し、自然豊かな小国町へ定住を促し、場所に捉われない動きをする方々などから移住地として選ばれる町になりたいと考えています。完成した施設は、小国町のSDGs推進施設として、ESD教育や町内外の人々が交流する場となるよう事業を進めています。



ニシザトテラスとして生まれ変わった旧西里小学校

寄附の具体的なメリット

魅力あふれる旧西里小学校校舎がサテライトオフィスとして生まれ変わり、小国町を照らす存在となるよう、この名前を付けました。企業の皆様にも小国町の明るい未来をともに照らしていただければ幸いです。本事業にご寄附いただいた企業様には、ニシザトテラス内に協力企業名を木製のネームプレートにて掲示させていただきます。

寄附申出書の事業名選択時は「NISHIZATO TERASプロジェクト」を選択してください。

重点プロジェクト

北里柴三郎プロジェクト

総事業費

480,010千円 寄附目標額 —

数値目標

●北里柴三郎記念館の入館者数 …30,000人／年
●観光入込客数の増加 …………… 120万人／年

〈SDGs〉関連するゴール



博士が私財を投じて地元の子どもたちのために建設した北里文庫や博士の生家がある小国町北里地区には北里柴三郎記念館が開館されており、周辺のコンテンツ充実を図るため、映像で博士の功績や信念、生い立ちなどが学べるシアターホールの建設を行い、記念館への来館者数の増加を目指しています。観光客のみならず、シアターホールを活用し、医療への関心や生き方、地元への愛着などを育み、地域を愛する子どもたちを増やすことも目的です。2024年に新紙幣として発行された後も教育旅行やツアー造成による継続的に来訪者を増加させる事業も必要です。



完成した北里柴三郎シアターホール

寄附の具体的なメリット

博士の生涯や功績を伝える場である北里柴三郎記念館内に、ご寄附いただいた企業名を掲示し、本プロジェクトは多くの企業の皆様からのご支援で成り立っているということを周知します。

寄附申出書の事業名選択時は「北里柴三郎プロジェクト」を選択してください。

●その他の寄附事業に関しましては、最寄りの肥後銀行までお問い合わせください。